

3 5. 《防災流域都市として江戸拡張大改造》

江戸幕府体制は3代将軍家光のときに完成しますが、江戸の町は、人口が増え手狭になってしまいました。1651年に跡を継いだ徳川家綱（注1）は、弱冠10歳でしたが、後見人保科正之（注1）と老中松平信綱（注1）の活躍により、武蔵国の水循環の骨格が形成され、江戸が改造されました。

1653年、多摩川から江戸に導水するために、玉川上水が築造されます。老中の松平信綱（川越藩主：注2）が総奉行となり、庄右衛門・清右衛門兄弟（玉川兄弟）が工事を請負いました。

1654年、利根川東遷の最後となる赤堀川に通水し、江戸を中心とする関東水運網を完成させるとともに、江戸に利根川の洪水が流れてくる量を軽減します。

1655年、玉川上水から分岐させて川越に導水する野火止用水が築造されます。野火止の名前は、消火用水から来ています。

そして1657年、江戸は、明暦の大火に見舞われます。（注3）このとき、正之と川越大火の復興を成し遂げた信綱が、防災を第一とする江戸拡張改造を断行したのです。（注4）

この拡張改造計画は、事前に練られていたふしがあります。大火の数年前に、遊郭を日本橋から浅草の吉原へ移転するなど、拡張改造事業は始まっていたと思われるからです。土地を領有していた幕府は、大火により建屋が焼失したことを契機に、一気に都市計画を実現したのでしょう。

こうして、江戸は、人口百万人を要する大都市に発展します（注5）。玉川上水から始まる江戸の拡張改造事業は、ローマの大火後の都市計画（注6）、ナポレオン3世のパリ改造（注7）にも劣らぬ偉業だったと考えたいのですが、いかがでしょうか。

注1：主要人物

徳川家綱（生没年：1641～1680年）

保科正之（生没年：1611～1673年）2代将軍秀忠の子で、3代将軍家光の異母弟

松平信綱（生没年：1596～1662年）3代将軍家光付きの小姓

注2：松平信綱は、1638年に川越が大火に見舞われた翌年、川越藩主となり復興に尽力。

川越の城下町の区画割を決めるなど、防災都市計画を断行しています。

注3：焼失：大名屋敷500件、旗本屋敷770件、町屋400町余、市街地の6割相当

死者：10万人以上

注4：創造的復興の主な項目

・上野広小路の整備・神田川拡幅・隅田川に大橋（両国橋）・江戸城内の徳川御三家の屋敷を場外に移転・江戸城周辺の大名・旗本屋敷をその外側に移転・寺社を江戸の郊外に移転・天守閣は再建せず

注5：古代・中世において、100万人を超えた大都市（ジョージ・モデルスキの推定値）

は、下記の12都市。江戸と同時代到北京など複数の百万人都市が存在。（なお下記カッコ内は推定年）

アレクサンドリア(BC100)、ローマ(AD100~300)、長安(AD700)、開封(AD1000~1200)、バグダード(AD1000~1200)、杭州(AD1200~1300)、南京(AD1400)、北京(AD1500~1800)、アユタヤ(AD1700)、広州(AD1800)、江戸(AD1800)、ロンドン(AD1800~)

注6：紀元67年、皇帝ネロの時代に、ローマは大火により3分の2が焼失。これを契機に、

防火用水をまちに配置するため噴水や浴場を数多く造ったと考えられています。

注7：19世紀中頃、ナポレオン3世は、大通りを、凱旋門から放射状に、また城壁を撤去

して環状に敷設するというパリ改造をやったのけます。これは、近代の都市計画の原点の1つです。

写真は、①玉川兄弟の銅像（羽村取水堰近くに存在。秘蔵マップHPより）、②松平信綱（川越市旭町三丁目の山車の人形。Blog taikoku19より）、③明暦大火の様子（Blog しばやんの日々）

①



②



③

